

鷹取山自然観察会会報

2016.12.11 No.14

都市林について

—いつまでも残したいみどりのために—

1 鷹取山周辺の緑地

図1は鷹取山周辺の緑地をgooglマップで俯瞰して、この周辺の緑地を示しています。ご覧のように湘南鷹取住宅地を囲むように緑地が続いているのがわかります。細長く取り囲むようにある緑地はすべて斜面緑地です。会報9号において鷹取山の緑地保全について報告しましたが、今回は緑地としての都市林について報告します。

鷹取山のふもとの湘南鷹取住宅地は昭和42年以降順次開発されましたが傾斜地の緑地だけが残りました。

私たちが観察している鷹取山は、横須賀市と逗子市との境界に位置し、逗子市側は沼間、神武寺方面に大きな緑地が広がっています。逗子側は市街化調整区域となっていて、この緑地には国有林も含まれています。また、神武寺から沼間には自然環境保全地域があります。一方、横須賀市側は鷹取山公園に7.9haとまとまった緑地がある他、鷹取山への尾根道などに斜面緑地が続いています。この斜面緑地は多くは次に説明する都市林と民地の緑地となっています。

2 都市林

図2では緑地のうち都市林を示しています。都市林とは都市公園法に位置づけられた



図1 鷹取山周辺の緑地



写真1 追浜南町都市林

樹林地であり、主として動植物の生息地または生育地である樹林地等の保護する都市公園で都市の良好な自然的環境を形成することを目的として配置するとしています。また、横須賀市都市計画課のホームページでは都市林を「市街地およびその周辺部においてまとまった面積を有する樹林地等において自然的環境

の保護、保全を目的とするもの」と定義しています。横須賀市みどりの基本計画では、横須賀市全域で 94.8ha あり、都市林として緑地として維持管理していると記載されています。

鷹取山周辺の都市林は湘南鷹取地域に16箇所、総面積 80,749 m²、追浜南町及び鷹取町には7箇所、総面積 46,139 m²となっていて合計12.7 haとかなりの面積があります。これら都市林の多くは西武の住宅開発に伴う斜面を市へ寄付した土地であると思います。なお、都市林の配置については公園管理課から情報を頂きました。

この斜面緑地が鷹取山周辺の自然環境にどのように影響している

のでしょうか。緑地は植物だけでなく、植物を食草とする昆虫など小動物の揺りかごになり、その昆虫を餌とする野鳥などの生息、移動、休憩する場の役割を持っています。最近では緑の回廊（コリドー）として、連続する緑地が生態系のポテンシャル（生きものの生

息・生育環境の質、種多様性）を高める効果が期待されています。私たちは都市林の多くが立ち入りできないので生き物調査は行っていないませんが、鷹取山周辺の生態系にプラスの効果があると思っています。維持管理に努め、いつまでも残してほしい緑地です。

（本多久男）



図2 鷹取山周辺の都市林

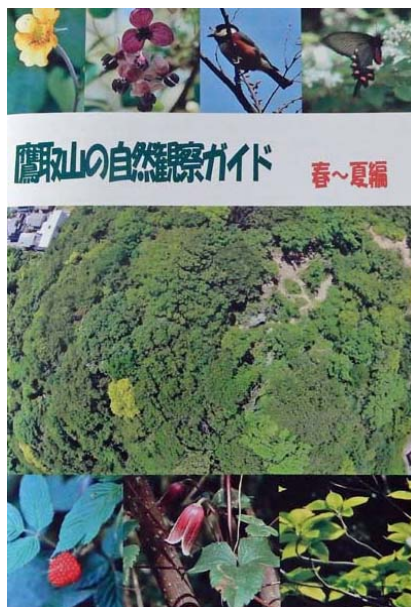
「鷹取山の自然観察ガイド」について

当会では地元市民に自然について関心をもってもらい、身近な自然環境の保全意識を啓発する目的で横須賀市市民協働推進補助金を頂き「鷹取山の自然観察ガイド（春夏編）」を作成

しました。市内では自然とのふれあいをテーマとした自然観察ガイドは余り作成されていません。このため、当会ではこれまで観察会に配布資料を作成していますが、冊子を作成すること

で自然観察会をよりわかりやすく充実したものになると思います。また、自然とふれあいを通して人と自然、植物と昆虫、野鳥などのかかわりを理解することができ、生態系のしくみを知ることができると思います。

自然観察会のポイントを解説した冊子として活用するほか、近隣の小中学校にも配布しました。



もくじ

1. 自然観察について	1
2. 鷹取山の地層	2
3. 鷹取山の生き物	3
4. 鷹取山樹木マップ	4
5. 春の七草を探そう (3,4月)	6
6. サクラの花の見分け方 (3,4,5月)	7
7. ウツギの花ってどんな花 (4,5,6月)	8
8. イチゴの仲間を探してみよう (4,5月)	9
9. タンポポ探し (4,5月)	10
10. 春のイネ科・スグ植物 (4,5月)	11
11. 男の木 女の木? (4,5月)	12
12. 春の花を観察しよう (3,4,5月)	14
13. 夏の花を観察しよう (6,7,8月)	17
14. 蝶の食草	20
15. 春～夏に見られる野鳥	22
16. オトシブミを探してみよう	24
17. イヌビワの実を観察してみよう (8月)	25
18. 春～夏に見られる赤い実	26
19. イラクサの仲間を探してみよう (8月)	27
20. セミの抜け殻を調べよう (6,7,8月)	28
21. 樹液に集まる昆虫 (8月)	29
22. 鷹取山の昆虫たち	30
23. 山で注意すること	32
24. 鷹取山からのお願い	33

1. 冊子の内容

私たちの身近な自然環境を知るうえで自然観察会は楽しみながら自然のしくみを知ることができる一つの方法です。自然観察会では植物や昆虫の名前を覚えることに余りこだわらずに、生き物の特徴を五感（見る、聴く、触る、味わう、嗅ぐ）を使い観察することが大切と考えます。この冊子は単なる図鑑ではなく、自然とふれあうきっかけづくりとなるよう、自然の不思議、植物と昆虫のかかわりなどを紹介しています。

この自然観察ガイドは鷹取山の春から夏にかけて自然観察のポイントを解説したものです。内容は目次のとおり3月～8月まで観察できる項目を掲載しました。多くの方にガイドブックを読んで自然について関心をもってもらえれば幸いです。

なお、ここに掲載したものはほんの一部であり、山に入るとさらに様々な生き物に出会いその営みの不思議に出会えると思います。このガイドブックに使用した用語などには小学生には難しいところもあるので、子供たちには保護者やリーダーの方から解説していただければ幸いです。

5月の花

5月に入ると鷹取山も春から初夏に移ってきている感じがします。

山には木本類ではミズキ、カマツカ、マルバウツギ、コゴメウツギ、ガマズミなどの白い花が目立って咲いています。マルバウツギは山道の両側に小さく白い多数の花をつけます。ヒメウツギ、マルバウツギ、ウツギの順に咲いていきます。鷹取山の崖地にはミズキが多く、樹液が豊富で春に枝を折ると水がしたり落ちることからこの名がついています。

ヒメコウゾ、ヤマツツジも花を咲かせます。ヒメコウゾは和紙の原料として使われていましたが今は野生化しています。

スダジイの花は遠くからも黄色い雄花が良く目立ちます。強い香りがあり、虫を引き寄せています。

その他、林縁ではジャケツイバラの黄色い花やオノノバナノスズクサが葉腋から花柄を伸ばしてラッパ状の花をつけています。

草本類ではカントクタンゴボ、ヤブヘビイチゴ、ヘビイチゴ、コバナタンナミ、ナルコユリ、キランソウなどもみられます。

（写真 上から左右の順）ガマズミ、カマツカ、ミズキ、コゴメウツギ、マルバウツギ、ジャケツイバラ、ハンシロウウツギ、スダジイ、ヤマツツジ



16



2. 仕様

A5版 36ページ カラー印刷

印刷部数：2500部

配布先：近隣小中学校 8校

行政機関、関係団体など

今後、冊子を活用して地元自治会など自然観察会を開催し、鷹取山の自然について知っていただくとともに、鷹取山の自然保護について啓発していきたいと思います。

さらに、秋冬編も次年度に計画していますので、会員の方には引き続きご協力をお願いします。

巣箱の掛け替えと利用状況調査について

—平成28年11月—

1. 巣箱掛け

シジュウカラ、ヤマガラは巣箱をよく利用してくれる野鳥でもあり、当会では平成25年から野鳥の保護を目的に巣箱掛けを行ってきました。平成25年に8個、平成26年に9個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。現在17個の巣箱が掛かっています。今年は昨年と同様に新たな巣箱を掛けずに巣箱の掃除と利用状況を調べ、再度巣箱掛けを行いました。

11月16日水曜日9時30分に鷹取山公園に会員10名が集まり行いました。2班に分かれて、巣箱は木から取り外し、利用状況を確認したうえで中を掃除し、水洗いして再び木に掛けました。巣箱は木を傷めないようシュロ縄で取り付けました。かける場所は地面から2～3メートルの高さで周囲に枝がなくて見通しがよい場所にかけました。なお、鷹取山公園は横須賀市の公園であり設置の届出を行っています。

2. 巣箱の状況

巣箱は上蓋が開くように作っており、蓋を開け確認しました。巣の材料は巣箱によって違っていて、コケが大半であり、その他シュロやイネ科の枯草、木の皮などもありました。巣箱を利用した鳥の種が何であるかは繁殖期に確認すればよいのですが、鳥を刺激することもあり調査はしていません。巣穴は直径3cmにしてあるのでシジュウカラ、ヤマガラ、スズメのいずれかと思われます。

3. 利用状況

巣箱の利用状況は、鷹取山北側では8個のうち5個が、南側では9個のうち4個（他1個はタイワンリスと思われる利用あり）が利用されていました。野鳥の利用率は52.9%（平成27年は58.8%）でした。2年間連続して利用



されたものは5個あり、2年間一度も利用されないものは1個だけでした。人が通る場所の近くでも巣作りをしているものもありました。日当たりの良い



シジュウカラ

場所では、南向き、西向きは入りにくいとの

情報もありましたが確認できませんでした。

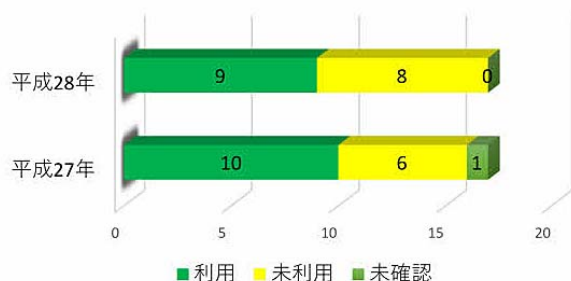
他の地域の巣箱利用状況など調べてみると30～50%程度であり、比較してみると高い利用率だと思われます。会員の多くが巣箱の利用率の高さに驚きの反応でした。

会では26年12月から第一金曜日に定期的に野鳥観察を行っています。巣箱の利用状況も継続して観察していく予定です。関心のある方は是非参加して下さい。今後シジュウカラ、ヤマガラが利用してくれるか観察したいと思います。



オゲラが巣穴を広げたのではと書きましたが、どうやらタイワンリスではないかと思いますが、更に調べていきたいと思います。

巣箱の利用状況



＜巣箱の掛け替えに参加した人＞

本多久男、中村紀雄、高橋和子、小池順子、市川實、竹之下香苗、林美紗江、郡司久、三科清高、原秀子、（順不同、敬称略）

鷹取山の秋の実

4. 大きな巣穴は誰が空けたの？

巣箱のいくつかに巣穴がかじられたり、写真のように大きく広げられたりしたのがありました。一つの巣箱にはシュロの繊維が巣箱一杯に入っていました。タイワンリスが利用したのかと思われます。今年の会報ではア



鷹取山の樹木の多くは秋に実をつけ目を楽しませてくれます。

ヤブムラサキ・ムラサキシキブは、紫色の実をつけます。ムラサキシキブはコースのあちこちで見ることができます。ヤブムラサキはムラサキシキブより実の数は少なく、実の大きさはムラサキシキブより大きく、毛が多い萼が残っています。葉も手触りはふかふかしてビロードタッチです。

ハゼノキ（リュウキュウハゼ）は見上げると枝先に灰色がかった茶色の実が房のようにあるのが分ります。ハゼノキは果実から木蛾が取れるので、江戸時代に琉球王国から持ち込み植林されました。現在あるハゼノキの多くはこのこのリュウキュウハゼで、ヤマハゼやヤマウルシは減少しています。 またハゼノキ



ムラサキシキブ



ヤブムラサキ



ハゼノキ



ウツギ



カラスザンショウ



カマツカ



マユミ



ニシキギ



キチジョウソウ

は紅葉が美しく、鷹取山から遠望すると山のあちこちに赤くなっている木はハゼノキです。

ウツギも多く、ヒメウツギ・ツクバネウツギ・コゴメウツギ・マルバウツギ、ハコネウツギがありますが、ウツギの実はちょっと変わった形をしています。花が枝にたくさんつくので実も多くつくことになります。5mm程度のお椀の形の真ん中に花柱が長く残っているので独楽のように見えます。

カラスザンショウは三浦半島に多く先駆植物の一つで大きな葉が傘のように広がります。大木なので枝についている実を見るのは困難ですが、枝ごと実が落下するので道に落ちているのを見ることができます。果実は灰褐色の果皮に包まれ黒い種子が顔を覗かせています。ミカン科特有のよい匂いがします。

カマツカは赤くやや細長い実をつけます。5月の花の頃もきれいですが、秋の紅葉、赤い実もステキです。枝がいぼ状の皮目なのが特徴です。

マユミも鷹取山には多くあります。花は緑色の4弁花で群れなして咲いていても目立つほうではありませんが、実はピンク色の萼が4つに割れて赤い実を見せて下垂しているので、可愛くすぐに見つけられます。

同じ科のニシキギは、鷹取山公園付近に植栽されていますが、紅葉が美しく、赤い実は2つずつつき仮種皮がはじけると薄茶色の種子が顔を出します。

ニシキギは枝に翼がありますが、この翼のないものがコマユミです。鷹取山にはないですが観音崎では散見できます。コマユミは野生のもので、ニシキギはコマユミの園芸品種といわれています。

ウバユリは暑い夏に咲くので花を見に来ることはあまりないのですが、秋に実をつけずっと立っているのは目立ちます。秋も深まると果実は割れて種子を散布します。種子は薄く膜があり平べったく風に乗りやすい形です。

キチジョウソウも赤い実をつけます。良い

ことがあると咲いて実をつけるといわれ吉事の花です。なかなか花をつけないのでこのように言われています。でもたくさんの株の中から花を咲かせているのを見つけると何となくうれしく、実になるのが待ち遠しいです。

被子植物の種子は子房の中で成熟し果実になります。鳥やタヌキやタイワンリスに食べられ種子散布するもの、風散布するものなど、勢力拡大、子孫を残すために手段を使います。高木になる実は、鳥類に食べてもらうためあまり大きな実ではありません。動物は栄養として実を食べますので、芳香がありジューシーなものなどを摂取します。

植物の一生は花が咲いて実がなって終わりと思いがちですが、しぶとく次世代へとつないでいて樹齢を更新しています。

里山は人の手が介入しなければ、よい状態が保てないといわれています。植生にとって理想状態なのか、人間にとってよい状態なのか、自然を保つか自然を作るか、難しいところです。
(小池順子)

12月の木 シュロ

シュロは、12月にはなくてはならない樹木です。鷹取山でも、数が増えつつあり、周りとは不釣り合いにいたるところで見ることができます。それはシュロが南方の木であり、ヤシの木の仲間であるからです。南九州には自生地があるそうですが、関東地方までが生育地で、植樹すれば東北地方でも生育しますが、以前は実生からは生育しなかったそうです。現在は、鷹取山の木は実生から生育したものでしょう。それだけ温暖化になっているといえます。鷹取山に多い落葉樹や照葉樹の中には異形の樹形をしているので目立つ存在になります。

シュロには、葉が垂れ下がるワジュロと垂れ下がらないトウジュロがあり、鷹取山で多く見るのはワジュロで

す。シュロはとても役立つ樹木です。幹の周りを覆う繊維質をシュロ皮といい、束子やシュロ縄など、日々の生活には欠かせない物の材料になります。最近は見かけませんが、シュロ皮でできた箒はとても使いよかったです。また、私の子供の頃まで、沿岸で漁業をしている漁師の家にはシュロが植えてありました。野島の周辺でもシュロが植えられた漁師の家を見ることができました。それは、当時まだ使われていた手で漕ぐ櫓舟の櫓を固定する綱（これを早緒といいます）を、自宅のシュロから取ったシュロ皮で作ったからです。今では、東京湾では櫓舟を見ることができませんが、今でもこれをしているのは、岐阜の長良川などでやっている鵜飼をするための櫓舟です。この船の早緒は、今でも鵜匠が自宅のシュロ皮で作るそうです。

現在、庭にシュロを植えている家をたまに見ることがあります。昭和30年代ごろに建てた昭和モダンを感じさせる家で、洋風の部屋の前に植えられた3本のシュロがおしゃれで好きです。もう一つ、必ずと言っていいほど植えてあるのはお寺です。寺とシュロは不釣り合いのようですが、シュロはお寺には欠かせない木なのです。それは、寺には必ずある梵鐘を突く木、鐘木がシュロだからなのです。シュロは年輪がなく、硬さがちょうどよく、良い音が出るそうです。シュロの鐘木は数年で使えなくなるそうですから、寺としてはスペアを植えておかなければなりません。



ん。京都に鐘木専門店があり、聞くと、小さな梵鐘はシュロで、大きな梵鐘はヒノキだそうです。



我が家にも時として梵鐘の音が聞こえてきます。追浜には、法福寺と良心寺があります。法福寺には梵鐘がなく、シュロ也没有。良心寺にはシュロはありますが、撞木は金属の覆いがしてあり、シュロではなさそうです。大晦日、紅白歌合戦の後、各地の寺院からの除夜の鐘の中継をご覧になりましたら、一人の僧侶が祈りながら突く、あるいは村人が突く山寺の梵鐘の撞木は、シュロの木であることを思い出してください。

(市川 實)

野鳥調査を始めます

今年も野鳥調査を12月～5月までの期間、月一度第一金曜日に調査を継続していきます。会員の方で野鳥観察に興味のある方は是非ご参加ください。2014年と2015年の調査結果では29種が記録できました。今後も新たな種が確認されると思います。また、名前を詳しく知らない方でも参加することで名前も覚えていきます。

なお、鷹取山自然観察会では環境省から「モニタリングサイト1000里地調査」（モニ1000調査）の一般サイトに登録されています。モニ1000調査では植物相、蝶類について行っていますが野鳥調査は当会独自に行っています。

2017年1月～3月の行事予定

☆ 野鳥調査（第1金曜日）

1月6日	当日雨のときは、日曜日に、さらに雨のときは水曜日に延期します。
2月3日	
3月3日	

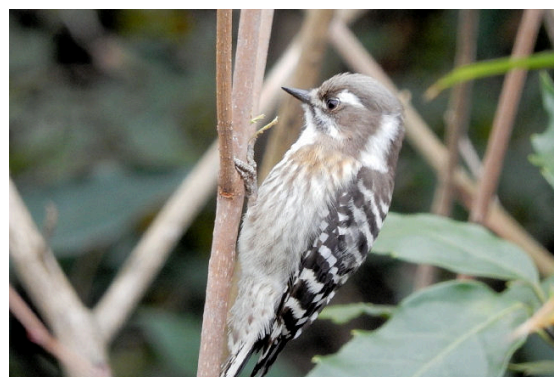
☆ 自然観察会（第2日曜日）

1月8日	冬を越す樹を観察しよう 集合場所：追浜駅 9時20分
2月12日	冬鳥の観察と冬芽を観察しよう 集合場所：京急田浦駅 9時20分
3月12日	早春の野草を探してみよう 集合場所：追浜駅 9時20分

当日雨のときは、次週の日曜日に、さらに雨のときは水曜日に延期します。

☆ 植物相調査（第4金曜日）

1月27日	当日雨のときは、日曜日に、さらに雨のときは水曜日に順延します。
2月24日	
3月24日	



鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会（旧 鷹取山の花と樹）

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表：本多久男 e-mail：takatori_0721@nifty.com